

実 用 新 案 公 報

公告 昭36.8.30 出願 昭35.6.29 実願 昭35-34808

出願人 考案者 中 川 利 吉 三重県北牟婁郡長島町東長島2492
代理人 弁理士 鎌 田 嘉 之 (全2頁)

扇 風 機

図面の簡単な説明

才1図は本考案の要部縦断正面図、才2図は同要部の平面図である。

考案の詳細な説明

本考案は担持用の回動主軸1を中心とする所要径の円周上に垂直立起のかつ断面弧状に彎曲する翼片2を放射状に列設してそれぞれの翼片2,2間に送風間隙3を構成し、各翼片2の上端には降下風誘導輪版4を開口5を中央に存することく覆設すると共に下部には上昇風誘導輪版6を円錐弧状周面7およびその周面上に放射状に列設される補助翼片8を有する通孔9と共に遮閉状に固設し、所要のガード10と共にこれを回動主軸1上に装設して成るものである。なお図において回動主軸1の上端が上昇風誘導輪版6の円錐頂部11に螺着部21等で着脱自在に固設され、輪版6の周面7上に各翼片2の下等が固設されて一体的に支持され、またガード10は支持杆12が主軸1の外套管13に固設して支持される。図中14はモーター、15は支持ケース、16は外套管13に摺動自在に外嵌される外管でケース15を覆うケース17を備え、モーター14の駆動軸18に対し回動主軸1が昇降自在とされており、19は外管16と外套管13を固定または遊動させる緊定環で螺条部20にて螺合されている。

本考案は上述の構成から成るもので、扇風機として首振等を行わずこれを囲む全周面に送風するものとして送風効率を良好としたもので、回動主軸1上に担持されて回転送風する翼片として、主軸1を中心として放射状にならびにそのいずれもが軸線と平行する垂直位置を占め、かつそれぞれに断面弧状に彎曲した翼片2として送風間隙3を列設し、さらに上部には開口5を存して翼片2の上端を閉塞する降下風誘導輪版4を設け、下部には上昇風誘導輪版6の円錐頂部11による閉塞と放射

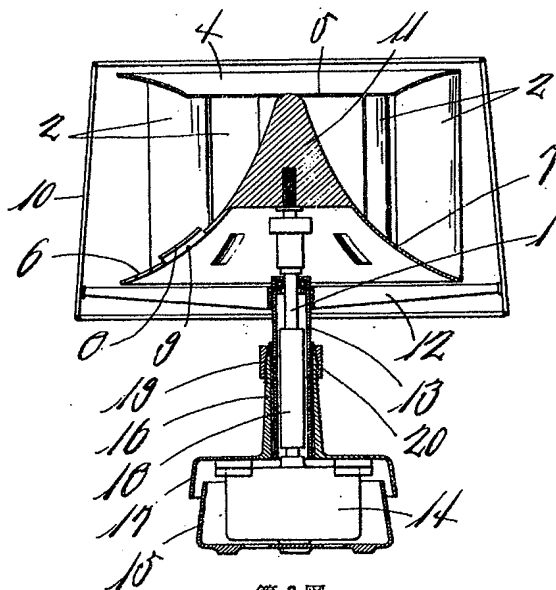
状にその周面7に列設された補助翼片8による通孔9と共に設けてあるから、回動と共に上部より吸引される風は輪版6の周面7より翼片2の送風間隙3に向いさらに下部より吸引されるものは通孔9より翼片8の案内をへて同じく送風間隙3に向い、両者の合成された風が間隙3より360°角全部にわたり放出される。このさい上部における輪版4の案内にて気流は乱れず開口5に集束されて吸い込まれ、さらに下部が開放状の場合は間隙3より放出する風は下向きとなる傾向を生じるが、これに対し下部より吸い上げる上昇風がその通孔9のみにより量的に制限され、かつ翼片8によつて減殺されつつ案内され、間隙3よりの風を正しく水平方向に放出拡散し得るものである。

従来の単なる全面送風に比し本考案は扇風翼体を特別の組み合せと形状の特定によつて、上下より吸い込み風として放出する気流を混乱せず集束させ、これを正しく周面に水平拡散させることが可能でこのため軽快な回転と送風効率の良好において優れ、風力の損失が少ない。また構造自体も簡単で全周面に対する均等な送風を容易に行えるものとして優れている。また本考案によれば翼片をめぐるガードを利用してここにサークライン蛍光灯のような照明体をも簡単に附設できる利点もある。

実用新案登録請求の範囲

詳細な説明に示すように、回動主軸1に担持される送風翼片2を主軸1の中心より放射状にかついずれも主軸1の軸線と平行の垂直立起状として各翼片2を断面弧状に彎曲させると共に送風間隙3を周面に列設し、この送風翼片2の上端には開口5を存する降下風誘導輪版4を閉塞状に装設し、下部には断面は円錐状のかつ弧状周面7上に補助翼片8を立起した通孔9を列設した上昇風誘導輪版6を同じく閉塞状に装設して成る扇風機。

第1図



第2図

